

魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：青山 佐知恵 所属：京都市立羽束師小学校 LD 等通級指導教室

記録日：29年2月17日

キーワード：書き支援, 漢字, 空間認知, 学習意欲, 表現, 自信

【対象児の情報】

- 学年 小学5年生
- 障害と困難の内容
書きの困難
学習意欲低下の懸念

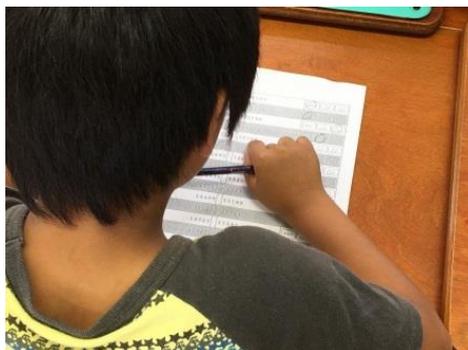
【活動目的】

- 当初のねらい（計画書の学習目標）と活動による方向性の確認状況
 - Pad を使うことで書くことへの自己解決の手だてを持つ。
 - 学ぶ意欲が向上することで宿題や授業に取り組む時間が増え自信を持って学校生活を送る。
- 実施期間 平成28年5月～平成29年2月 週一回
- 実施者 青山 佐知恵
- 実施者と対象児の関係 LD等通級指導教室担当

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

- 書くことが極端に苦手な速度が遅く、手に力が入っている。
- 文字の形が整わず書き順が定着していない。
- 漢字は頭の中に浮かんでいるというが、完全に正確には想起できていない様子である。
- 毎週1回の漢字10問テストは10問中、2問～3問の正解。
- 手先が不器用で、縄を結んだりすることが難しい。
- 水泳や体操などを習っており、得意で活動的であるが落ち着きがない面がある。
- こだわりが強く融通が利かない面がある。
- 算数科では計算は得意であるが、図をかいて表したりすることが苦手で、特に立体図形が苦手である。
- 理解力はあるが、書くことの苦手意識から自信を失いつつある様子が心配である。
- 昨年度の普通学級担任と保護者の勧めから今年度4月からLD等通級指導教室へ入級し、とても意欲的である。



- URAWSS 検査を実施（平成28年5月24日）
書き速度：1分間に16字，12字で評価C
読み速度：1分間に366字で評価A
内容理解：6問中4問正解

- PVT-R 絵画語彙検査を実施（平成28年5月31日）
評価点11
生活年齢10才4か月
語彙年齢10才8か月
- 語彙発達に関して，問題はなかった。

- K-ABC II 検査の一部を実施（平成28年9月20日）
時間の都合上，同時尺度と継次尺度のみの検査を実施した。
結果は継次尺度<同時尺度であった。
評価点（平均=10 標準偏差3）
数唱5 語の配列6 手の動作8
絵の統合17 近道さがし9 模様の構成11
絵の全体を見て把握する課題に対しては標準以上であったが，数唱，語の配列の評価点が低い。
継次処理が苦手であるということが分かり，やはり，漢字の書きに関して，細部の想起に課題があると
考えられる。
数値が高かった同時処理能力の高さを強みにして，全体から部分へ，空間的・統合的な取り組みをした
い。漢字の形を意味付けしながら覚えて書くような取り組みが有効ではないかと考える。
部首や漢字が表している意味，似ている漢字の関連性などを重視した取り組みを計画した。

- 見ることにに関して，全体を見ることは得意であるが細部を見るということが苦手のようである。
漢字を書くことに関する困りと，見ることの問題について，有意性が見られるのではないかと考え，本
児の目標を以下のように計画した。

- ★長期目標
 - 書くことへの困りを解消していく。
 - 得意なことを増やし，自信を持って学校生活を送れるようにする。
- ★短期目標
 - 漢字の想起の仕方を見つける。
 - 児童に合った漢字の学習の仕方を体得させる。
 - 細部を見る力をつけるためのトレーニングをする。

○活動の具体的内容

① 視覚運動と手先の巧緻性をアップするために

- ・スピード数字, 「タップナンバーズ」
- ・「3Dずけい」
- ・数字見比べ
- ・マスコピー
- ・点つなぎ
- ・さかなつり
- ・ビーズおつまみ
- ・絵をよく見よう
- ・視覚運動トレーニング



③漢字の想起を支えるために

- ・「筆順辞典」＋「カメラ」＋「ジグソーボックス」
- ・「小5漢字ドリル」
- ・「漢検トレーニング」
- ・「例解学習国語辞典」
- ・「筆順辞典」
- ・漢字カルタ
- ・漢字ビンゴ



○対象児の事後の変化

<1> 視覚運動と手先の巧緻性をアップするために

「書くことだけがじゃまくさい。。目が疲れる。
でも、漢字テストはいい点とりたいねん！！」
指には力が入り、書き順も定まらず手先の不器用さも見受けられた。

視覚運動と手先の巧緻性はスピードがやや遅いぐらいで特に問題はみられないように思われるが、本人にとっては困難さがあることがわかってきた。

鉛筆の持ち方はそれほど悪くはない。



- スピード数字（アナログ）と「タッチナンバーズ」（アプリ）の2つを毎時間取り組み、児童の様子と処理の速さを比べた。5月、（スピード数字）は、25までの数字で55秒。同じ課題を視野移動・動作が少なくてすむ。アプリ「タップナンバーズ」でも実施したが、60秒かかっている。以後、毎時間実施した。毎時間、取り組むことで、タイムが縮んでいった。

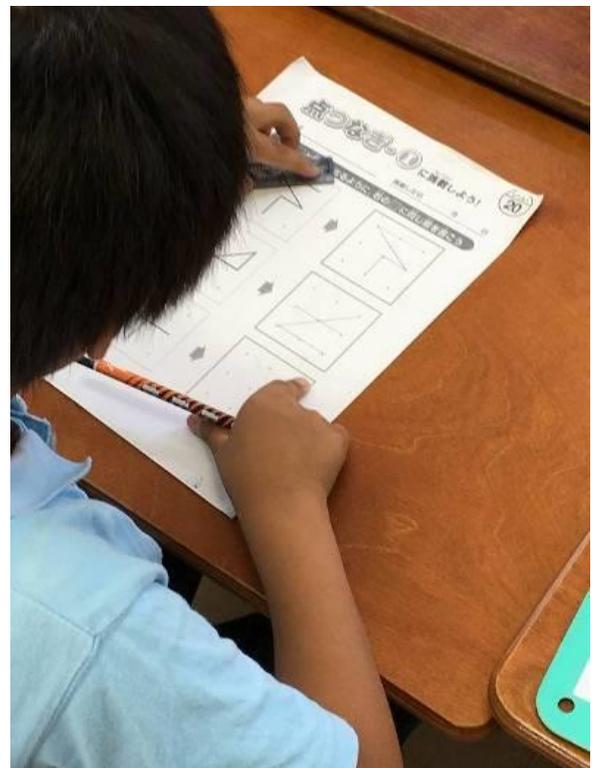
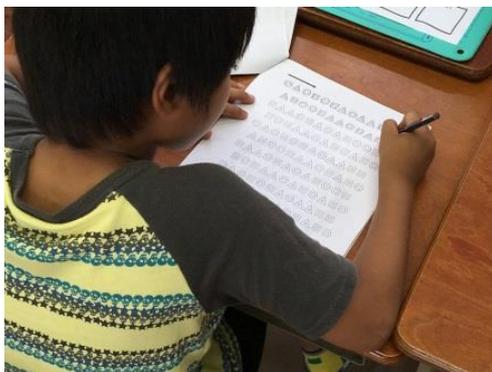
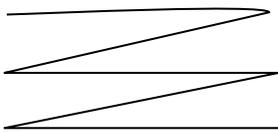
• 「3Dすけい」

立体の箱の数を数える課題では、右図を7と答えずに13と答えていることから、空間認知にも課題があると考えて取り組んだ。



- 「点つなぎ」は、丁寧に定規を使って模倣できるが、「目が疲れる。。。」とつぶやく。左右の目の動きが苦手なようであった。

- 「数字見比べ」「マスコピー」は動作を見ているも全体を見ながら、数字を探すというより、以下のように上の段より左右に眼を動かして数字を探している様子が見られた。



<2>漢字の想起を支えるために

「その漢字なんとなく覚えてるんやけど。。。」

もうちょっとで思い出せそうやねん。。。」

全体はぼんやり思い出せるが細部が思い出せないようであった。

ヒントにへん・つくりだけを提示すると思い出しやすいことがわかった。

漢字の書字が難しいこと背景に、漢字の複雑な形態についての記憶の困難さが想定された。

そこで、漢字の学習を進めるにあたって、本児には漢字の構成要素に分解させたり、再構成させたりすることによって各要素間の関連性を理解させることが有効なのではないかと考えた。

・「筆順辞典」＋「カメラ」＋「ジグソーボックス」

- ① 「筆順辞典」で文字・書き順の確認をする。
- ② 思い出せない漢字をピックアップする。
- ③ 「筆順辞典」を「カメラ」で撮る。(スクリーンショット)
- ④ 漢字のパーツを拡大して、確認する。
- ⑤ 「ジグソーボックス」でパーツをバラバラにしてパズルにする。
- ⑥ 紙に書いてみる。
- ⑦ 書けなかったら、「筆順辞典」の筆順動画を見ながら、一緒に紙に書いてみる。
- ⑧ ジグソーボックスのライブラリに漢字を貯めておき、家でもやってみる。

① 「筆順辞典」で文字・書き順の確認をする。

毎回、書き順が違っていることが多いので、書き順を確かめることで漢字をよくみて覚えることにつながった。



② 思い出せない漢字をピックアップする。

漢字ドリルで、漢字 10 問テストの出題を調べ、自分で予習をすることへつながった。

③ 「筆順辞典」を「カメラ」で撮る。

(スクリーンショット)



④ 漢字のパーツを拡大して、確認する。

拡大したり、縮小したりを自分で確かめながらできるようになった。

拡大して、「この漢字なんだ？」と問題を出したりして楽しみながら取り組んだ。

細部に注目することができた。



- ⑤ 「ジグソーボックス」でパーツをバラバラにしてパズルにする。

漢字のパーツがバラバラになる前に細部をよく見るという作業ができるようになった。



- ⑥ 紙に書いてみる。

在籍学級での漢字10問テストを想定して、本児の思いが一番感じられる取り組みである。いい点を探りたいという意欲が感じられる。

- ⑦ 書けなかったら、「筆順辞典」の筆順動画を見ながら、一緒に紙に書いた。

筆順を動画で見ながら書くことで、どこに注目すればいいのか明確になった。

- ⑧ ジグソーボックスのライブラリに漢字を貯めておき、家でもやってみる。

ジグソーボックスに漢字を貯めていくことが楽しいと言って、自分でライブラリを管理するようになった。完全に覚えられた漢字は自分で削除しているようである。

漢字を想起する課題を自作することで細部の情報を意識づけることができた。



- 「漢字部首カルタ」

カードをたくさんとるためによく見てよく聞くことができた。
夏休みには家に持ち帰り、友達や家族と遊んだ。



部首の名前や意味に興味を持ち、よく覚えるようになった。



- 漢字ビンゴ



「同じ部首で、いろんな組み合わせを見つけたよ。漢字っておもしろいなあ。」

- 「例解学習国語辞典」

調べて正しく解決するという視点で、主に「例解学習国語辞典」を使用した。
字を「覚えられる」を目指して頑張るとい気持ちも大切につつ、「調べる」ことで「正しく書ける」という経験を積ませるようにした。漢字の意味や部首、使い方を調べる活動を取り入れ、自分で学習する手立てをもつことができた。



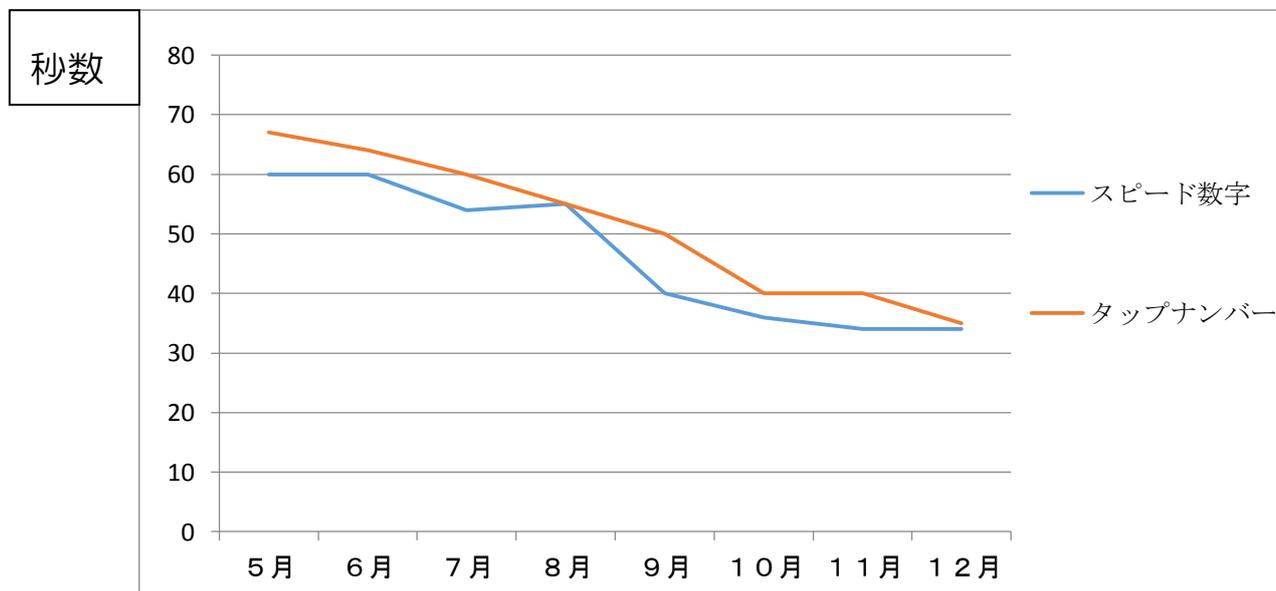
- 「筆順辞典」

読み方のわからない漢字はあきらめていたが、手書きで書いて調べることで自分で学習できるという自信がついた。



○報告者の気づきとエビデンス

<1> 視覚運動と手先の巧緻性のためのトレーニングは書くことの困りに対する手立てとして効果があった。スピード数字とタップナンバーに毎時間取りくみ、秒数を計っていったところ、早くなり動きもスムーズになった。在籍学級では、集中力が高まり、やる気を感じられるようになってきた。



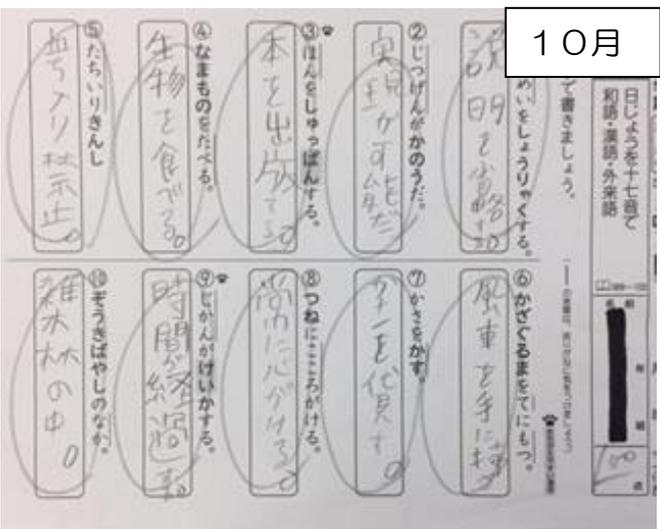
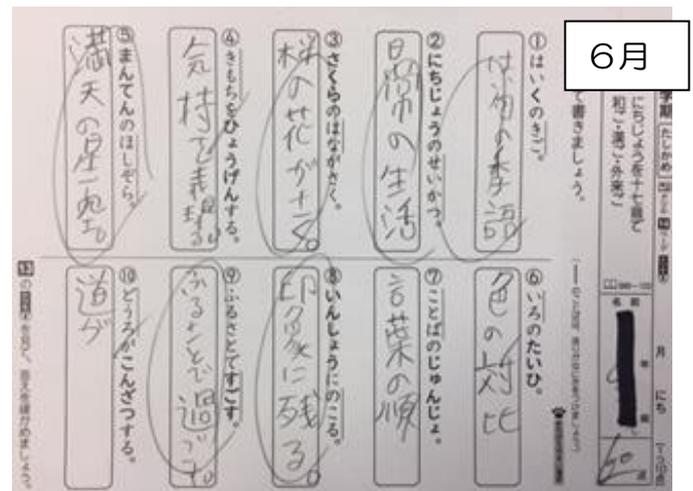
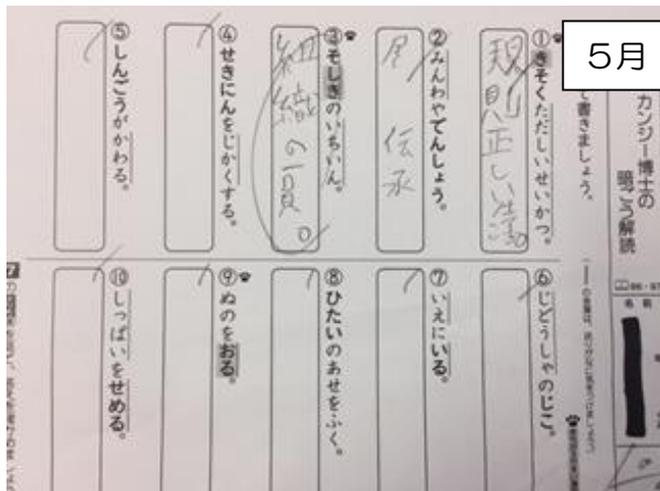
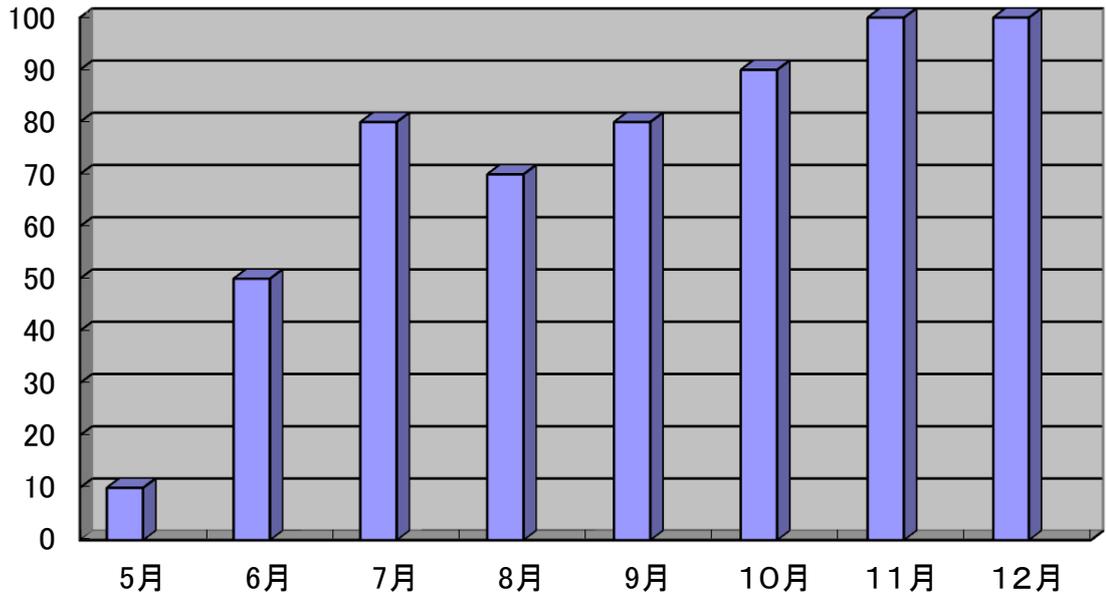
「授業中、黒板をノートに全部写せるようになってきたよ！！」
毎時間、視覚運動と手先のトレーニングをすることで書くスピードが速くなり目も疲れにくくなってきた。

<2> 漢字を想起するための手立てを見つけられたことで自信につながった。

漢字10問テストは現在70点～100点が採れるようになった。

2学期末の50問テストは92点であった。本校では希望制で漢検を校内で受けることができ、今回初めて自ら挑戦したいと言い、1月に漢検8級を受検し、結果を楽しみに待っている。

漢字10問テスト



「先生、100点とれたよ!!」

お母さんも担任の先生もほめてくれた!!」

漢字を選択して細部を注目する活動から「伝わる」自信につながった。漢字の構成要素に分解させたり、再構成させたりすることによって各要素間の関連性を理解させることができ、想起を促すことにつながった。

本児が決めた目標である漢字10問テストで100点を採ることが達成できたことで益々やる気をみせてくれている。「丁寧に書く」ことではなく、「伝わる」ことが自信につながった。

・URAWSS検査

(平成28年5月24日)

書き速度：1分間に16字、12字で**評価C**

読み速度：1分間に366字で評価A

内容理解：6問中4問正解



(平成29年2月16日)

書き速度：1分間に33字、21字で**評価A**

読み速度：1分間に570字で評価A

内容理解：6問中4問正解

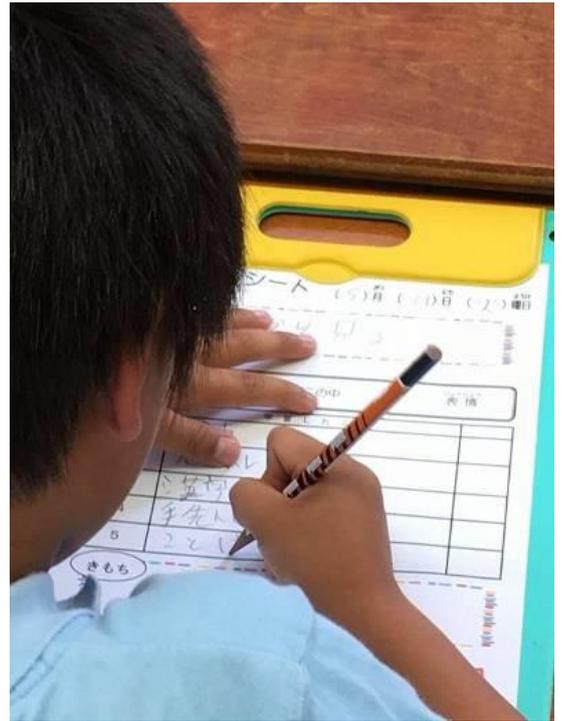
- 書き速度は、速くなり、C評価からA評価になった。
教室では、自分のわかる程度の文字でノートテイクができています。
- 通知表の成績評価は読みはB評価、書きはB評価に近いC評価に上がった。

「苦手だった、都道府県を書くテストも漢字を覚えて書けるようになったよ。」



「在籍学級では、春より学習態度がよくなり、集中が持続できるようになってきましたよ。黒板をノートに最後まで写すことができるようになりました。以前より書くことへの苦手意識がなくなってきたようです。」（在籍学級担任より）

- ・LD等通級指導教室は、本児にとって週1時間の取り組みではあるが、在籍学級担任、保護者、学校との連携が本児のがんばりを支えた。
タブレットを活用した本児の取り組みは、この1年間で、本児にとって大きな自信となっている。



めあて しりとり見る

じぶんチェック

	学習したこと	
1	音読み	○
2	書く	○
3	見る	○
4	漢字	○
5	体ほぐし	●

きもち たのしかったわ

通級教室より

毎時間、とてしなく頑張っている姿が、とてもうれいです。漢字を覚えて書くことができています。

おうちから

お母さんやお父さんと一緒に勉強している姿が、とてもうれいです。漢字を覚えて書くことができています。

担任より

漢字テストでは、とてもいい成績を上げています。国語で読書をする習慣も、とてもいいです。